第４７１号

くまのこだより

社会福祉法人 岡山こども協会

令和５（２０２４）年１１月１日（金）発行

赤磐市桜が丘東 6-6-704
さくらが丘保育園

『こどもは自然が大好きです』

自然の中には発見や学びがいっぱい。私たちの日常は、より便利に、より快適に過ごせるようにたくさんの人工的な工夫がされています。ですから、「自然体験」は非日常になっているのかもしれません。便利・快適に過ごすことに慣れている私たち大人は、虫や植物、また、土や水などに対して抵抗がある人が、こどもたちに比べて多い気がします。しかし、こどもにとって人的環境の私たち大人が「こどもたちにとって」を考えてどこまで虫や植物、また、自然と触れ合える機会を作っていけるかがこどもの心と体の育ちを促すうえで重要であることを忘れてはいけません。

さくらが丘保育園の園庭はでこぼこです。自然の中をイメージして、そこそこの大きさの木を園庭に転がしてあることもありました。また、東３丁目にはわくわくの森という森を野外活動の場として所有しています。職員や地域のボランティアの力を借りて整備を進めている森です。不思議がいっぱい、発見がいっぱいのこどもが大好きな自然に大人も一緒に飛び込んでみませんか。身近な自然を感じにわくわくの森へ親子で行ってみませんか。興味がある方は、是非お声がけください。

花房　由美

お知らせ

〇フード付きの服とスカートは危険です。

フードやスカートは、遊具であそんでいる際に引っ掛かり、大変危険です。安全に遊べるように、お子さんとお話したうえで、服装に注意して登園をお願いします。

〇11 月 14 日・15 日は、ほし組お泊り保育です。

いつもの仲間とわくわくの森に出かけたり、保育園での宿泊を楽しんだりします。

桜が丘幼稚園との交流会。
ハロウィンうちわ作りをしました。

丸めるのも固めるのも難しいよね～

今、話題の…

すずらんより

▼マイコプラズマ肺炎▼

　最初はかぜと似た症状が現れ、１～２日遅れて咳が出始めます。約１ヵ月しつこく続くのが特徴です。特に早朝や就寝前に、ひどく咳込む傾向があります。咳が長引き、なかなか改善されない場合は受診をおすすめします。

　潜伏期間（14 日～21 日）が長く、咳で感染が広がるため、手洗い・うがい、アルコール消毒などをこまめに行いましょう。また、かぜやインフルエンザと同様、免疫力が弱っている時にかかりやすいので、栄養や睡眠をしっかりととり、規則正しい生活を心がけましょう。

衣替え

　日中は暖かい日もありますが、朝・夕方は冷え込む季節になりました。この時期は薄手の長袖やカーディガン、上着など、暑さにも寒さにも対応できる服で調整しましょう。汗をかくこともありますので下着も数枚ご用意ください。

　園で着る物については、事故防止の為、フードのついていない服をお願いします。

私の好きな絵本

　わかってはいるけれど、こどもに対してついキツイ言葉を言ってしまう…そんな経験はありませんか？私はあります。それなのにこどもたちは【どんなおかあさんでもだいすき！】でいてくれます。この絵本に出逢えてからは、心に余裕がない時こそ深呼吸してこどもへの「だいすき」の想いを込めたやさしい言葉で伝えるように心がけています。

梶谷正美

『クラスで今！ブームのあそび①　ほし組』

　フルーツバスケットを楽しんでいます。椅子を円の形に置く時にいびつな丸になることもありますが、声を掛けると自分たちで考え、綺麗な丸を意識して椅子を並べます。

　全員が移動をする「フルーツバスケット」の声掛けにとびきりの笑顔を見せるこどもたち。真ん中に立ってフルーツを言いたい子が多く、空いている椅子があってもなかなか座らない姿もあり、ルールを守ってあそべるようになるのは、いつ頃かなぁ～？と楽しみにしています。

『クラスで今！ブームのあそび②　ゆき組』

　段ボールで作ったポットン落とし。積み木を一枚入れるのにちょうど良いサイズの穴が開いています。

　穴に積み木を入れ、「よし！入ったぞ！」と満足していると、段ボール製なので少し「ガコン」と音がします。その音がしてから下を見るので、こどもたちの目線が下に行った時には、すでに積み木は落ちてきていて…。出てくる瞬間がみたいのに、なかなか見れない…。それが面白いようで繰り返し楽しんでいます。

～集団あそび紹介～　『フルーツバスケット』

1. 椅子を輪にして並べ、内側を向いて座る。
2. 一人、椅子の真ん中に立つ人を決める。
3. 立つ人も含めて、子どもたちをそれぞれ 3～4 種類のフルーツにわける。
4. こどもたちは自分が何のフルーツなのかを覚える。自分のフルーツを覚えたところで、いよいよゲーム開始！
5. 真ん中に立つ人は、さっき組み分けられたフルーツのなかから、好きなフルーツの名前を言う。
6. 自分のフルーツの名前を言われた人は、座っていた席から離れて、他の空いている席に移動して座る。
   この時、真ん中に立っていた人も空いている席を探して座る。
7. 椅子に座れなかった人が、輪の真ん中に立ち、4～5 を繰り返す。
   ・フルーツの名前を複数言っても、OK！
   ・フルーツの名前以外に、「フルーツバスケット」と言うこともできて、「フルーツバスケット」と言われたら、全員が席を移動する。

今月のテーマ『こどもは自然が大好きです』

花は咲く

バケツ稲が実り、もみを収穫しました。お米作りをしている保護者から水のはり方や抜き方、肥料を与えるタイミングなどを教えてもらいながら育てました。

こどもたちは、稲穂から一粒一粒を大切に取り外しながら、「おにぎり」を夢見ておにぎり話を弾ませていました。

太陽と土と水、自然の恩恵を受けて育ったお米。「おにぎり」が食べられる日はもう間近。直接体験を通して、自然のありがたさを伝えられるよう活動を積み重ねてたいと思います。

そら組　土屋　勇気

いちばんぼし

春や夏は、ダンゴムシ探しがブームで、牛乳パックの虫かごに何匹も集め、過ごしやすいように土や葉っぱを入れていました。ダンゴムシの好きな場所を知っているので、草をかき分けて、畑の枠のブロックのあたりを探しているうしろ姿が可愛かったです。

また、秋は、園庭にイチョウの葉っぱなどが落ちています。最初は「きれい！」「黄色い葉っぱがある」と１つ１つ拾っていました。たくさん拾い集めるうちに、花束に見えることに気づき「お花できた」と見せています（写真）。葉っぱの色や形が綺麗だと感じるとともに、１枚ではなく、たくさんの葉っぱを集めると花束の様になったなど、新しい発見をしていました。

これからの時期、園庭だけではなく、いろいろな所へ散歩に行き、自然と関わることを楽しみたいです。

ほし組　下山　静菜

散歩が大好きなこどもたち。目的地に向かって歩いていると、金木犀の香りがしました。保育者が「秋のにおいがする」と言うと、こどもたちも、「ほんとだ！あきのにおいするね」と保育者の後に続いて言っていました。しばらく歩いた先の、また違う場所でも「あっ！またあきのにおいしたよ！」と保育者が言わなくても、こどもたちが匂いの変化に気づき、近くの保育者や友だちに伝えていました。こどもたちなりに匂いや風景から自然を感じていて、驚くとともに、うれしくなりました。

涼しくなり、とても過ごしやすい時期なので、積極的に園外に行き、こどもたちと一緒に身体と心で、季節・自然を感じられたらと思います。

つき組　竹内　和羅

にじのかけはし

いろいろなものに興味や関心が広がっていて「あれなに？」「これなに？」のコールが止まりません。

散歩の道の途中で気になるものを見つけると、立ち止まり保育者に尋ねています。分かるものは「飛行機だよ～」「金木犀だね」とこどもたちに伝えたり、一緒にしばらく眺めたりしています。時には、どこかのお家からすごくいい匂いが…。すかさずこどもたちは「焼きそばだ！」と言っていました。

いろいろな季節のものに触れる・感じる経験は、大人が積極的に自然に関わる姿を見せ、お手本になることも大切だと思い、意識的に関わっています。

にじ組　大森　航輝

ゆきぐみテラスの前には、アサガオのグリーンカーテンがあります。そこにやってくるアリや芋虫を見つけ、真剣な表情で観察するこどもたち。大人の目線では見つけられない虫を、こどもは次々と見つけます。３～４人で集まって一匹の虫を観察する姿は、まるで研究者の集まりのようです。

また、アサガオが種を宿す時期がやってきました。小さな果皮から落ちた種を見つけた子が、「うんち」と言って持ってきました。虫のうんちと勘違いしたのでしょうね。「これはアサガオの種だよ」と伝え、実際にアサガオの果皮から種を出すと、これまた不思議そうな表情で見つめるこどもたち。

それからは、同じような果皮を見つけると、「あったよ」と、とても嬉しそう。秋は、いつものテラスが、自然の宝箱に変身しています。

ゆき組　　土屋裕香

Fresh　snow

おはながわらった

くちぶえの家に散歩に行きました。たくさんのどんぐりやねこじゃらしがあり、こどもたちに見せるとにっこり。さわったり手から溢れそうなくらいどんぐりを集めたりしていました。

園まで帰る道中にも、様々な草花や虫がいて興味津々。カマキリを捕まえて見せると、怖がりながらも近づいて触ったり、警戒しながらじ～っと観察したりしていました。

こどもたちが興味をもったものにひとつずつ丁寧に答えていき、自然に興味をもてたらいいなと思います。

はな組　玉置七彩

全私保連保育運動
新しい時代は子どもから

保護者の皆様へ 私たちが伝えたい7つのメッセージ

今回のメッセージは……

その7 子どもは自然が大好きです

朝起きてカーテンを開けると、お日様の光が降り注ぎます。まだ眠い子どもも、その日射しのまぶしさで、だんだんと目を覚ましていきます。日の光を浴びることで、一日の生活リズムが整うと言われています。お日様という自然の力です。しっかり朝食を食べて、保護者の皆さんの家事が落ち着いたら、さあお出かけです。「お片づけをして、お外行くよ」の声かけで、いそいそと玄関へ向かいます。

一人で歩けるようになれば、頭部保護、熱中症予防や保温のために、（嫌がらなければ）帽子を被ることをお勧めします。また、暑くても寒くても、お茶を持って行きましょう。

準備ができたらさあ出発。「今日はどこへ行くのかな？」

目的地まで車でというご家庭も多いと思いますが、歩くこと（お散歩）で自然との関わりがぐんと増えます。公園があれば公園へ、川があれば川へ、あぜ道があればあぜ道へ、でいいのです。道端の花を見つけて香りを楽しんだり、そ～っと触ってみたり、犬や猫、鳥たちに声をかけたり、日向の暖かさ、日陰の涼しさなども感じながら、お散歩を楽しみます。目的地に着くまでの寄り道は子どもにとっての宝物です。

雨の日は湿った空気や雨音が子どもを包みます。サッシを伝う雨粒も、子どもには不思議な生きもののように、注意を引き付けます。一日雨で外に出られない時も、少し窓を開けて外気に触れたり、飾ってある花や水槽の魚、虫かごにいる虫たちを眺めることができれば、自然に触れたいという子どもの欲求に応えられます。

図鑑や絵本で、昨日公園からポケットに入れて持って帰ったものを調べたり、並べたり、興味、関心に応じた楽しみ方ができます。

子どもは胎内で羊水に包まれ、身近な大人の体温を感じ、外気に触れ、大地を這い、育っていきます。泣いている赤ちゃんを抱っこしてベランダに出ると泣き止むのは、風や匂いなど、目の前に広がる未知なる自然を敏感に感じ取っているのでしょう。

暑い、寒いと戸外に連れ出すことを負担に感じる時もあります。でも遊びが無限にある自然の中での遊びが、子どもは大好きです。「お外行こうか」の声かけを子どもは待っています。